

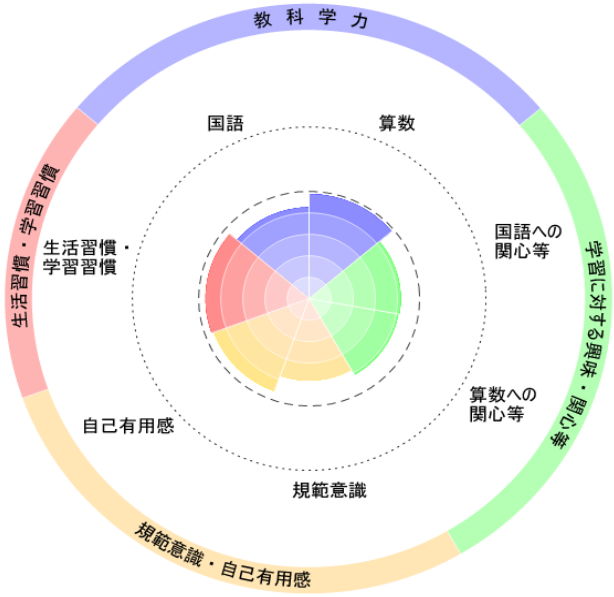
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	○文章を引用して解答する力が身についてきている。 ●漢字の習得率が低い(特に，同音異義語)。 ●相手の反応を見ながら話すことが苦手。	・同音異義語については，小学校段階において習得しなければならないものを洗い出し，くり返し指導する。 ・ねらいをはっきりさせて，インタビューなどの言語活動に取り組む。
算数	○グループ活動を取り入れたり，習熟度別コースに分けて単元のまとめを行ったりして，子ども同士が関わり合いながら，主体的な学習となるような授業づくりをしたところ，基礎的な内容の定着が図れてきた。 ●四則計算が入り混じった問題の正解率が低い。 ●文章を読み取る力や読み取ったことをイメージ化する力が弱く，分からない問題で答えを導きだそうとする意欲が低い。	・授業中，個人思考の時間を取り入れ，一人でじっくり考える機会を与えていく。 ・学力調査のような問題に慣れる機会を設けていくことで，形式に慣れさせたり，数をこなしたりしながら，解けるようになっていけば，意欲も高まり，「算数が好き」と答える割合も増えていくのではないかと考える。また，学力調査問題を全教職員で検討し，それぞれの学年での授業づくりに活かしていくようにする。 ・個別指導やスモールステップでの学習を継続し，力がついたことが実感できるように支援していく。

(2)生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
	○話し合い活動に進んで取り組んでおり，自分の考えを深めたり，広げたりしようとする意識をもっている。 ○体験学習の充実，人権学習の取組，ドリームプロジェクトなどを通して，自己有用感が育っている。 ●地域の行事に進んで参加しているが，どんなことが地域や社会をよくすることにつながっているのかという理解が低い。 ●自分の考えがうまく伝わるよう，工夫して発表しているという意識が低い。	・考える視点を具体的に与えるとともにみんなで考え，行動に移す活動を計画していく。 ・全員に，自分のこととして考えて発表する場を確保して経験できるようにし，よかった点を評価していく。

(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)

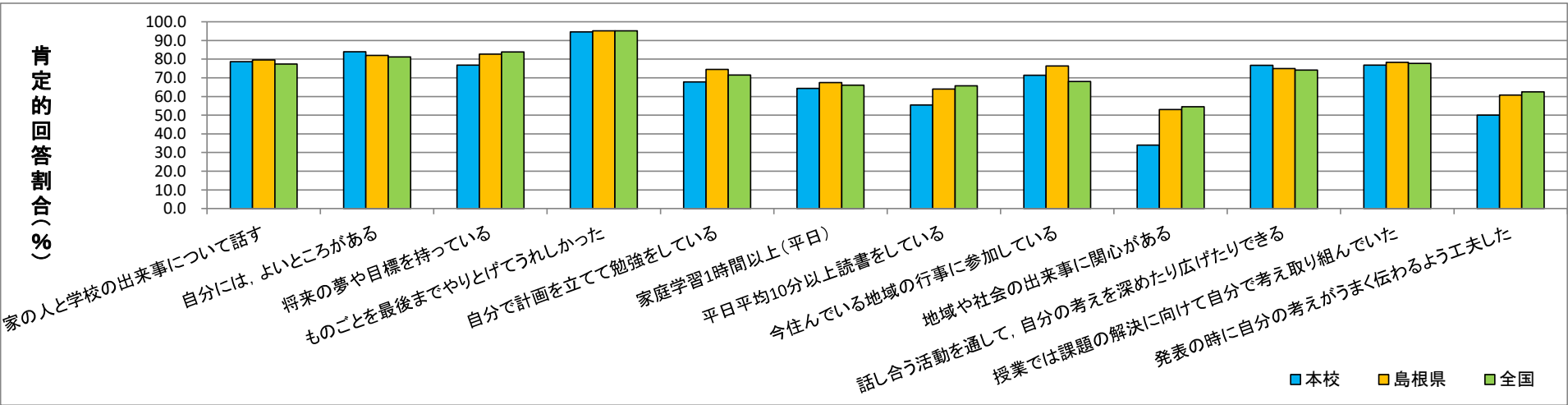


(5)その他，今後特に力を入れて取り組むこと

・学校図書館を活用した教育を推進するために，図書の貸し借りだけでなく，学習・情報センターとしての機能が発揮できるような取組を導入し，子どもたちの自発的・主体的な学習活動を支援していく。具体的には，図やその他の資料を使って授業を行う等，教科の日常的な指導において活用する。また，授業で学んだことを確かめ，広げ，深めるための資料を集めて読み取り，自分の考えをまとめて発表するなど，子どもたちの主体的な活動を支援していく。

・今後の学習意欲につなげていくために，学習をしてきたことを子どもたちとふり返るとともに，その意義や成果を伝えていきながら，学んできたことを自覚させていく。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや，教育委員会として注目しているものを挙げています)



【参考】

○平均正答率

	本 校	松江市	島根県	全国
国語	57	63	62	63.8
算数	65	66	65	66.6

受検者数 56 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は，最少の受検者数をもって表示して下さい。